現代測量についての研修

令和６年３月８日に衛星を使用した測量について、神戸青光社の方を講師に迎え熊野支部の研修を開催いたしました。

紀北支部からも参加者があり、座学と現地においての実習を行いました。

今回実習を行った測量は、ネットワーク型 RTK 測位（VRS・FKP）というものです。

実際その方式による精度が気になったのですが、幸いなことに研修場所には、都市部官民境界基本多角点が多数ある地域でした。

その多角点と実際に計測した値とを比べたところ X 座標 Y 座標ともに 2～3 ㎝ほどのズレがありました。

高さについては、もう少し誤差があると聞いていましたので、XY よりはもう少し誤差がありました。　他の測量方法によっては精度はかなり上がると思います。

最近ではドコモやソフトバンクが衛星の解析を行っており、無料で使用できるという事なので、もっともっと精度が上がっていくようです。

これからの測量は、機器も安価になり精度についてもかなり上がっていくだろうと確信できた研修でした。

熊野支部　畑中伸章




高圧ガス



測量に利用される干渉測位

- スタティック測位
- リアルタイムキネマティック（RTK）測位
- ネットワーク型RTK測位

1）初期化（整数値バイアスの決定）
衛星から送信されている電波を連続した波とする。 受信機が最初にデータ（波）を受信したとき、その波のどの部分であるかはわかるが（搬送波の位相の観測）、この瞬間に衛星と受信機の全体の波の数は不明である。
この未知数が整数値バイアスである。 この整数値バイアスを解くことは処理